くまの神様

春待ち　りこ

くまの神様

「鈴木さん。。。少しお話がありますので
　カンファレスルームまでお越しください。」

入院中のじぃちゃんの担当医師に呼ばれた
どうやら、病状の説明があるらしい

病室のべっどの上ではじぃちゃんが。。。
小さなクマのぬいぐるみに手を合わせている

このぬいぐるみは。。。
隣の病室に入院していた佐藤さんから
３万円で買ったそうだ
どう見ても、３万円の価値があるとは思えない
古ぼけたちっこいクマのぬいぐるみ

100円ショップで売っていそうだ

でも、じぃちゃんはこのぬいぐるみには
神様が宿っているのだと言う

「佐藤さんはとても重い病気でな
　もう長くないと医者から言われていたそうじゃ
　でも、ある日。。。
　このぬいぐるみが夢に出てきてこう言った

　『私は、本当は神様なのです。毎日、私を拝みなさい。
　　そうすれば、あなたの病気を治してあげましょう。。。』

　っで。。。言われたとおり
　このぬいぐるみに毎日手を合わせていたら
　病気が治ったんじゃと。
　自分はもう退院することになったから
　本当は手放したくないけれど、特別にわしになら。。。
　と言って、たった３万円で譲ってくれたんじゃ。
　ありがたい。。。
　これで、わしの病気もなおるでな。」

あはっ。。。
あきらかに。。。だまされてるよね

「だまされたんだよ。」

僕がそう言っても、聞く耳を持ってくれない
じぃちゃんはぬいぐるみを毎日、拝み続けてる
孫の僕より、その佐藤とかいう奴を信じてるらしい。。。

まぁ。。。しばらくほっとくか

じぃちゃんを病室に残して
僕は、カンファレスルームにむかった

「残念ながら。。。現代の医学では
　もう。。。打つ手がありません。
　出来ることと言えば痛みを迎えるくらい。
　もって。。。3か月というところです。」

医師の話は深刻だった
僕は、心の奥でひそかに覚悟をした
あの陽気なじぃちゃんがいなくなる
そう想像しただけで
なんだかとても、寂しかった

●　　●　　●

半年後。。。

じぃちゃんは、今日もクマのぬいぐるみを拝んでいる

医師の余命宣告は、3か月だったが。。。
倍の半年、生き延びた

「先生。。。どうなんでしょうか
　あれから、半年になります
　祖父は、まだ元気そうに見えますが
　本当は病気はかなり進行していて
　生きてること自体が奇跡。。。
　ということなのですか？」

「はい。。。奇跡と言えば。。。
　奇跡と言えるのかもしれません。
　実は、おじいさんの病気が
　どうやら治ったみたいなので。。。」

「どういうことですか？」

「確かに、おじいさんの病気の治療法は
　現代の医学では、ないのです。
　でもまれに、おじいさんのように
　自力で治ってしまう方もいる。
　自然治癒力ってやつですよ。」

その時、ふと。。。
あのクマのぬいぐるみを思い出した

「先生。。。実は、祖父は。。。
　クマのぬいぐるみを持っていまして。。。」

僕は事のいきさつを担当医師に話した

そんなバカなことがあるはずはないと思ったが
もしかしたら。。。という気持ちが抑えきれない

「単なる偶然ですよ。。。」

ただ、そう言ってもらいたかった

こんな話をしたら
笑われるかもしれないと覚悟していた
でも、担当医師は真剣に僕の話を聞いてくれた

「そうですか。。。
　そんなぬいぐるみがあるんですね
　そのぬいぐるみが神様かどうかは
　私にはわかりません
　ただ、医学的にいうのであれば
　人の免疫力というのは、精神状態にとても左右されるのです
　クマのぬいぐるみを手に入れたことで
　おじいさんが、助かると信じ
　毎日、拝むことで。。。
　信じる力がどんどん強まって
　人並み外れた免疫力を手に入れた。。。ということは
　十分に考えられますね。

　どちらにしてもそういうことなら
　そのぬいぐるみは。。。おじいさんにとっては
　まさに、神様だったということでしょう。」

なんだか、妙に納得してしまった
じぃちゃんは、あながち、だまされたわけじゃなかったんだ

。。。人は信じてみるもんだ。。。

「じぃちゃん、退院できるよ。」

病室に戻り、僕はじぃちゃんにそう報告した
じぃちゃんは、とても嬉しそうだった

●　　●　　●

そして。。。退院の日

病室に迎えに行くとじぃちゃんがいない。。。

しばらく病室で待っていると
健康そうな晴れやかな笑顔で戻ってきた

「どこへ行ってたの？」

「隣の三村さんの病室じゃよ。。。
　三村さんは、末期癌でな。。。
　もう、手術もできないそうじゃが
　なに。。。
　あのぬいぐるみを譲ってあげたから
　もう大丈夫じゃよ。」

僕は。。。
本当にそうかもしれないと思った
それは。。。最初は嘘だったのかもしれない
けれど。。。嘘から出たマコト。。。
じぃちゃんにとってあのぬいぐるみは
まぎれもない神様だったんだから

三村さんのところでも。。。
マコトが出るかもしれない
いや。。。きっと出るよ。。。

出るに決まってる！！！

「じゃあ、行こうか。。。じぃちゃん。」

「あぁ。。。やっと家に帰れるな。。。」

じぃちゃんは、嬉しそうに目を細めた
本当に、良かったなぁ

。。。ん？。。。

。。。あれ？。。。

。。。あっ！！！。。。

僕は、気づいてしまった。。。

じぃちゃんの手の中には。。。お札が。。。
ちょっと見たところ、10万くらいはある

たぶん……。

あの神様。。。
値上がりしたんだ。。。あちゃ〜。
じぃちゃんたら。。。まったく。。。

前言撤回。。。

人はやっぱり。。。

信じちゃいけない！！！

おしまい